

日本双生児研究学会ニュースレター



《第73号》

Newsletter of Japan Society for Twin Studies

2022年12月発行

目次

- ・日本双生児研究学会第37回学術講演会
プログラムのご案内 2023年2月4日(土)開催
- ・第40回日本双生児研究学会 夏の研修会のご報告
- ・学会誌『双生児研究』発刊のお知らせ
- ・幹事会 報告
- ・学会事務局よりお知らせ 2023年会費納入のお願い
- ・会員用メーリングリストについて

編集後記

会員募集のお知らせ

入会を希望される方は郵便振替用紙に口座番号(00910-2-253840)、加入者名(日本双生児研究学会)をご記入の上、年会費(3,000円)をご送金下さい。また、通信欄に所属・所属の住所・電話番号・FAX番号・E-mail等をお書き添え下さい。

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-7 大阪大学大学院医学系研究科

附属ツインリサーチセンター内 日本双生児研究学会事務局(渡邊幹夫)

学会ホームページアドレス <https://jsts.jp.net/>



<日本双生児研究学会 第37回学術講演会のご案内>

大会委員長 就実大学 鈴木国威

日程

2023年2月4日(土) 10時00分~18時00分

受付は9:30より行います。

会場

就実大学 S館 S101教室

- JR 西川原・就実駅より徒歩1分
 - ▶ 岡山駅から山陽本線、赤穂線にて東側1駅目です(岡山駅から3分)。
 - ▶ 乗り換え案内などでは、西川原駅と省略されて表示されることもあります



参加費

- 会員、一般 2000円
- 多胎児家庭 500円
- 学生無料(学生証の提示が必要です)

事前登録のお願い

- 受付をスムーズに行うために、事前登録をできる限りお願いいたします。（発表代表者、講演者は必要ありません）
- <https://forms.gle/vBip1veqeTv6rVwv7> (右 QR コードより)
- 事前登録後に参加を取りやめても、大会委員会への連絡は必要ありません。



発表者への連絡

- 一般発表は一人 12 分（質疑応答の時間を 4 分程度確保してください）（入れ替わり予備時間 1 分を用意しています）です。
- 発表会場には Windows で power point があります。
- 持ち込みの PC の場合、RGB、HMDI にてプロジェクターに接続可能です（念のため、パワーポイントのファイルを鈴木にメール添付で送るか、USB などのデバイスに保存し、会場に備え付けてあるパソコンにファイルを移動させるようにしてください）。
- ベルは 8 分で 1 回、12 分で 2 回鳴らします。
- 配布資料は各自用意し、発表者の責任のもとで配布を行ってください。

対面での参加について

- 対面での参加は基本的な感染対策（マスクの着用、手指の消毒）を心がけてください。
- マスクを着用していない場合には、会場がある大学構内には入れません。
- 会場においても、密にならないように距離を置いて席を確保してください。
- 昼食を持ち込む場合には、会場にて食事が可能です。ただし、食事中（マスクを外した状態）の会話を控えてください。
- コロナ感染状況が悪化し、緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が発令された場合には、全面的にオンライン発表に切り替わることがあります。

オンライン参加について

- Zoom を使用し、同時配信いたします。ただし、視聴の機会を保証するものではありませんので、ご承知おきください。また映像や音声の質も保証致しません。
- オンラインで使用する機器が不調の場合には、予告なしに同時配信を取りやめることがあります。
- Zoom の ID やパスは 1 月末にメーリングリストにお知らせいたします。双生児研究学会会員以外にはお知らせしないでください。
- 受付時間から入室可能の予定です。

その他

- 大学周辺にはコンビニエンスストアが1つあります。飲食店は非常に少ないです（google map や map などをご確認ください）。コンビニでのお弁当を好まない人は岡山駅にて食料を調達してください。または、岡山駅まで戻り昼食をお取りください。
- その他の情報は <https://www.shujitsu.ac.jp/access/> をご確認ください。

プログラム

第1セッション (10:00~10:52) 座長：横山美江

健常一卵性双生児を対象とした HbA1c 値に影響するエピゲノム因子の解明

橋本 日向子 1・長谷川 美佳 1・加藤 志歩 1・森 早穂 1・吉岡 咲紀 1・上田 宏達 1・大阪
ツインリサーチグループ 2・渡邊 幹夫 1,2

- 1 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座
- 2 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

一卵性双生児ペア内の遺伝子発現量の類似性

加藤 志歩 1), 長谷川 美佳 1), 橋本 日向子 1), 森 早穂 1), 吉岡 咲紀 1), 上田 宏達 1), 大
阪ツインリサーチグループ 2), 渡邊 幹夫 1), 2)

- 1) 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座
- 2) 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

一卵性双生児を対象とした IMT に関与するゲノム・エピゲノム因子の同定

森 早穂 1・長谷川 美佳 1・加藤 志歩 1・橋本 日向子 1・吉岡 咲紀 1・上田 宏達 1 大阪ツ
インリサーチグループ 2・渡邊 幹夫 1,2

- 1 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座
- 2 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

一卵性双生児を対象とした甲状腺機能に影響を及ぼすエピゲノム変化の探索

吉岡咲紀 1・長谷川美佳 1・加藤志歩 1・橋本日向子 1・森早穂 1・上田宏達 1・大阪大学ツ
インリサーチグループ 2・渡邊幹夫 1,2

- 1 大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻生体病態情報科学講座
- 2 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター

第2セッション(11:00～11:39) 座長：松葉敬文

多胎育児サークルの継続と発展の諸要因

落合世津子 1,2,3 ・立木茂雄 4

1 おおさか多胎ネット・2 大阪大学大学院医学系研究科附属ツインリサーチセンター・3 同志社大学大学院社会学研究科 同志社大学 4

双生児間の関係性と母親のストレスに関する研究-属性別の検討

横山美江 1 福田早苗 2

1 大阪市立大学大学院看護学研究科
2 関西福祉科学大学健康福祉学部

新型コロナ禍の多胎児子育て状況をふりかえる

安藤寿康 1 ・糸井川誠子 2,3 ・天羽千恵子 2,4 ・藤澤啓子 1 ・山形伸二 5

1 慶應義塾大学文学部 2 一般社団法人日本多胎支援協会 3 NPO 法人ぎふ多胎ネット 4 ひょうご多胎ネット 5 名古屋大学教育学部

昼食 幹事会 (11:39～12:40)

総会 (12:40～13:00)

教育講演 (13:10～14:10)

統合的人類史学からみた人間行動の変化と遺伝

松本直子 岡山大学

奨励賞受賞講演 1 (14:20～14:50)

介護予防と行動遺伝学

乾富士男 畿央大学

奨励賞授業講演 2 (15:55～15:25)

利き手における遺伝要因及び環境要因の検討

鈴木国威 就実大学

第3セッション 座長：渡邊幹夫 (15:35～16:01)

多胎家庭の保育所等への入所に関する全国調査

志村恵¹⁾²⁾³⁾、糸井川誠子¹⁾⁴⁾、大岸弘子¹⁾⁵⁾⁶⁾、太田ひろみ¹⁾⁷⁾、大高恵美¹⁾⁸⁾、落合世津子¹⁾⁵⁾⁹⁾、玄田朋恵¹⁾³⁾、佐藤喜美子¹⁾、滝口圭子²⁾、田中照子¹⁾¹⁰⁾、天羽千恵子¹⁾⁶⁾、中原美智子¹⁾¹¹⁾、服部律子¹⁾⁴⁾¹²⁾、日下田貴政¹⁾¹³⁾、平石皆子¹⁾¹⁴⁾、松葉敬文¹⁾¹⁵⁾、松本彩月¹⁾¹⁶⁾、

村井麻木¹⁾¹⁷⁾

1)日本多胎支援協会、2)金沢大学、3)NPO 法人いしかわ多胎ネット、4)NPO 法人ぎふ多胎ネット、5)おおさか多胎ネット、6)ひょうご多胎ネット、7)多摩多胎ネット、8)日本赤十字秋田看護大学、9)大阪大学、10)NPO 法人ホームスタートジャパン、11)NPO 法人つなげる、12)神戸女子大学、13)京都新聞社、14)山形県立保健医療大学、15)岐阜聖徳学園大学、16)あいち多胎ネット、17)ツインズクラブ久留米

新型コロナ予防に対するふたご育児家庭の困難感調査

～テキストマイニングを用いた分析～

松葉 敬文 1,6 ・ 布施 晴美 2,6 ・ 松本 彩月 3,5,6 ・ 天羽 千恵子 4,6

1 岐阜聖徳学園大学 2 十文字学園女子大学 3 金城学院大学 4 ひょうご多胎ネット

5 一般社団法人あいち多胎ネット 6 一般社団法人日本多胎支援協会

第4セッション 座長：高橋雄介 (16:05～16:31)

双生児が学校環境に与える影響について

南澤 武蔵、大井 和彦、對比地 覚、関塚 洋子、磯谷 由希

東京大学教育学部附属中等教育学校 双生児研究委員会

高校生の学力・進学における遺伝×社会階層交互作用

安藤寿康 慶應義塾大学文学部

故布施晴美先生追悼シンポジウム(16:40～17:40)

多胎家庭支援と子育て支援の交点

コーディネータ：志村恵^{1) 2) 3)}

発表者：稲吉久乃⁴⁾、大高恵美^{1) 5)}、加藤則子^{1) 6)}、杉浦祐子^{1) 7)}、村井麻木^{1) 8)} 山下倫実⁶⁾

1) 日本多胎支援協会、2) 金沢大学、3) NPO 法人いしかわ多胎ネット、4) 東京都中野区犯罪被害者等相談支援窓口、5) 日本赤十字秋田看護大学、6) 十文字学園女子大学、7) ツインズマザーズクラブ、8) ツインズクラブ久留米

次回大会長挨拶(17:45～18:00)

※懇親会はありません。会場を情報交換などの交流の場として、18:30 まで利用できるようにします。利用される場合には鈴木までお申し出ください。

<第40回日本双生児研究学会夏の研修会のご報告>

2022年7月23日(土)にZOOMで行われた大阪母子医療センター産科の川口晴菜先生によるご講演「多胎妊娠の管理」のスライド資料(抜粋)を次頁より掲載させていただきます。

<学会誌『双生児研究』発刊のお知らせ>

編集委員長 安藤寿康

学会設立から悲願であった学会誌が、いよいよ e ジャーナルとして発刊されることになりました。考えてみれば、1987年に本学会が設立してから、実に35年の長きにわたりました。いったいなぜこんなに時間がかかったのだろうとふりかえってみますと、本学会はずっと「日本双生児学会」ではなく「日本双生児研究学会」という名称を名乗り続けています。これは学会というよりも研究会としての意識が強かったからではないか。会員はそれぞれ学問のさまざまな分野や多胎の親の会など多様なバックグラウンドをもつハイブリッドな性格を持ち、そして「双生児学」という独立した学問があるわけではないという認識だったからなのでしょう。年次大会も「学会総会」と名乗らず、「学術講演会」と呼び続けているのもそのためではないかと考えます。

確かに Luigi Gedda が gemellology という名称を作り、“Acta Geneticae Medicae et Gemellologiae”という学術誌を立ち上げましたが、それもいまでは“Twin Research and Human Genetics”と改名され、「双生児学」の名は消えました。

そう考えますと、ハイブリッド学会としての性格を残しながら、その学術誌を立ち上げるというのは、考えてみれば世界的にみても稀有なことといえるでしょう。単に遺伝環境問題を解明する方法論を提供したり、多胎児の子育て状況にかかわる問題意識を共有するだけではない、焦点としての「双生児」に関わる学問的・社会的仕事を形として残す場を立ち上げたのです。

この事業は、直接的には2021年の第36回日本双生児研究学会を開催された松葉先生のご提案に幹事会も鼓舞されて、その発刊を決意したものでした。学会直後からただちに準備委員会をたちあげ、それが編集委員会に移行して、現在、乾富士男、加藤則子、菅原ますみ、野寄茉莉、松葉敬文、横山美江、安藤寿康(敬称略)の7人のメンバーで取り組んでいます。

上記のように、このような専門誌は世界的にも稀有なものですので、日本語論文だけでなく英語論文も受けつけ、国際誌としても通用するものとし、オープンアクセスできるオンラインジャーナルとして、本学会のホームページ上から閲覧できるものになります。オンラインジャーナルにもちゃんとこのような表紙がつかます。論文の記念すべき第一号は、第36回学術講演会で基調講演をされた Nancy Segal 先生の論文です。

これから広く会員のみなさまからの投稿を募ります。論文投稿の規程もホームページにアップいたしますので、ご参照ください。ピアレビューによる査読も行わせていただきます。予算潤沢な学会ではございませんので、投稿論文が採択され刊行する際は、編集費の実費(いまのところページあたり2500円程度)をご負担していただくこととなりますが、ご理解ください。奨励賞を受賞された業績や学術講演会で発表された演題の内容などで学会誌がにぎわうことを編集委員一同、心待ちにしております。この論文刊行の実績を基に J-stage への登録や日本学術会議への加入など、学会の発展に寄与するものとして、学会の大切な知的財産として、活用していきたいと思っております。編集委員長 安藤寿康



＜日本双生児研究学会 幹事会報告＞

2022年7月23日 Web 開催 幹事会 議事録

出席者：安藤寿康、糸井川誠子、加藤則子、志村恵、菅原ますみ、広瀬英子、本多智佳、横山美江、渡邊幹夫 計 9名（敬称略）

審議事項

1. 第37回学術講演会の現状（鈴木大会長：代理 横山）

ニュースレターで報告しているが、対面方式、ハイブリッド方式での開催も検討している（準備段階）。コロナの感染拡大状況によってはオンライン開催となる可能性あり。感染予防策の記載を次回、ニュースレターで追記する予定である。

2. 選挙にかかわる日程について（事務局：渡辺先生）

人数、投票方法、選挙権、同封資料について、資料に基づき説明がなされた。スケジュールとして、投票資料の発送、開票、結果の報告について、幹事選挙施行規則について基づき実施されることが報告された。

幹事の会長推薦については、2023年1月11日に開催される幹事会において、新会長が決まってからの推薦とする。なお、開票日程は2022年12月5日（月）16：30を予定。

3. ニュースレターの発行（廣瀬委員）

72号発送済みであることが報告された。73号については、2月の大会の内容、7月23日の研修会の内容等について掲載することを検討中である。12月に発送予定である。

4. 学会誌について（安藤編集委員長）

編集委員として、新たに加藤先生、野崎先生が編集委員として参画されていることが報告された。オンラインジャーナル(eジャーナル)については、組織テンプレートの作成を外部の業者(ソウホッカイに決定)に依頼することが報告された。2022年1月の学会の招待講演を現在テンプレートにのせる作業を現在実施している。遅くとも秋には第1本目が出る予定。順次、論文投稿を促す必要がある。ガイドライン等はニュースレター等で提示している。

5. 学会誌に伴うホームページの作成について

学会誌に伴うホームページの作成の予算は学会誌の計画にあげている。業者より、ジャーナル表紙について問い合わせがあり、レイアウト、アクセスの方法等については今後相談する必要がある。少なくとも学会ホームページ上にeジャーナルのページを作成する必要がある。コンテンツがあれば現在のホームページ作成業者への依頼で可能と思われる。将来的にJ-STAGE等に掲載する場合は本数が必要である。

6. 奨励賞審査委員会について（菅原委員長）

ニュースレター22ページに掲載された資料に基づき、今年度の奨励賞について報告された。9月末日までに事務局へ送付いただき、10月末日までに審査、11月末日までに結果を報告する予定である。受賞者は、第37回学術講演会にて受賞講演を行ってもらおう。提出資料については、電子媒体での提出も可とする旨が話し合われた。

7. 2024年第38回学術講演会大会長の候補について

京都大学大学院 国際高等教育院行動科学教室 准教授 高橋雄介先生が、第38回学術講演会大会長として承認された。

8. 書記の支払いについて（横山）

院生・学部生への謝金から換算することとし、大阪公立大学の人事課に確認を行い、振込先は事務局へ連絡する旨が確認された。

(参考)事務局：5,000円/月

9. その他

- ・研修会時のアンケートについては、次回以降実施を検討する。
- ・次回幹事会について、新旧の幹事が参加する予定とする。

2022年11月24日 Web 開催 幹事会 議事録

出席者：安藤寿康、加藤則子、志村恵、菅原ますみ、広瀬英子、福島昌子、本多智佳、横山美江、渡邊幹夫（敬称略）

欠席者：糸井川誠子、早川和生（敬称略）

審議事項

1. 奨励賞の審査結果について（菅原委員長）

奨励賞について2件の申請があり、乾富士男氏、鈴木国威氏の両名が2022年の奨励賞受賞者として奨励賞審査委員会より推薦され、幹事会にて承認された。受賞者への受賞通知は、事務局からお送りすることとなった。なお、受賞した両名には、第37回学術講演会にて講演を行うとともに、可能であれば、双生児研究に講演内容を投稿いただくことを依頼することとなった。詳細は、双生児研究編集委員会にて検討することとなった。

2. 奨励賞の規定について（菅原委員長）

菅原委員長より、奨励賞規定の改正案が提案され、承認された。

3. 第37回学術講演会について

11月20までに14件の抄録の応募があることが報告され、奨励賞の報告時間についての詳細は、学会長と横山で協議することとなった。

4. 学会誌の発刊とホームページ掲載について（安藤編集委員長）

安藤編集委員長より、双生児研究の発刊について報告され、学会ホームページに投稿規定や論文等の掲載をすることとなった。

5. 選挙について（事務局：渡辺先生）

選挙の実施状況について事務局の渡辺先生より報告された。開票は、2022年12月5日（月）の予定である。

6. ニュースレターの発行（福島委員・廣瀬委員）

第73号（12月）ニュースレターの発刊の準備状況について廣瀬委員より報告された。

7. その他

事務局の渡辺先生より会計の締めに関する依頼があった。

<学会事務局よりお知らせ>

2023年の会費振り込み用紙を同封していますので、お振込みをよろしくようお願い申し上げます。未納年がある場合には複数年分の金額を記載しております。本会の会計年度は1月～12月になります。

<会員用メーリングリストについて>

当学会事業のお知らせと、会員間の情報交換や交流にもご活用いただきたく、2017年度より会員用新メーリングリスト (jstsm1@googlegroups.com 以下 ML) にご登録いただいております。ご協力をありがとうございました。

登録がお済みでない方は、下記の手順に従いご登録くださいますようお願いいたします。

◎現会員の登録について

学会 HP の【お問い合わせフォーム】 (<https://jsts.jp.net/contact/>) から、「区分」は「その他」を選び、「お問い合わせ内容」に「ML 登録希望」として、①お名前、②メールアドレス、③所属等の3点をお知らせください。追って担当者より「ML 登録完了」のご連絡をいたします。

◎新入会員の登録について

新入会員については、「ML 非登録」のお申し出がない限り入会申込と共に ML に登録しますので、連絡は不要です。ご入会後に担当者より「ML 登録完了」のご連絡をいたします。

◎配信の停止・変更

配信の一時停止・再開やメールアドレスの変更などについても、上記【お問い合わせフォーム】からお知らせください。

◎利用上の注意

- ・MLでの発信・返信は、「送信者名」、「アドレス」、「本文」がML登録会員全体で共有されます。特に返信の場合はご注意ください。
- ・添付ファイルを制限していませんので、コンピュータウイルスは各自で防衛してください。
- ・jstsm1@googlegroups.com からのメールを受信できるように設定していただければ、携帯アドレスでの登録も可能ですが、添付ファイルの容量制限等もありますので、PCアドレスでの登録をお勧めします。
- ・大学や職場のドメインを含むアドレスの場合、ウェブ投稿機能がドメイン管理者により無効にされていることがあります。ご自身の投稿が反映されない場合には、ドメイン管理者にご確認の上、別アドレスへの変更等をご検討ください。



編集後記



今年も新型コロナウイルスの影響を受けながらの1年となりました。皆様も対応に悩みながらお過ごしになられたことと思います。2023年1月の学術講演会は、対面開催が予定されております。予定通りに進みますことを願いつつ、プログラムをお手元にお届けいたします。これまでの会員のみなさまのご協力に感謝しますとともに、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

編集委員：福島昌子（福井大学）・廣瀬英子